■織田幹雄　〝三段跳び〟でオリンピック日本人初の金メダリスト。日本の陸上競技の発展に尽くし〝日本陸上界の父〟。
おだみきお
日露戦争終・1905＝　瀬戸内海に面した広島県安芸郡海田市町で，貧しい家に生まれたが，

家族全員が長寿の家系で，丈夫であった。

明治天皇没・1912＝ 7歳：

第一次大戦始1914＝ 9歳：この頃から，_走ることを始め，グランドでは他校の選手を離して優勝するぐらいで，
21ヶ条要求・1915＝10歳：_全校マラソンに出場，倒れるまで走り，その頑張りを褒められて以後熱中，
民本主義・・1916＝11歳：中学進学のための塾に，毎日峠を超えてマラソンで往復。
ロシア革命・1917＝12歳：マラソンで倒れて，初めて欠席。
本格政党内閣1918＝13歳：念願の広島一中に入学し，強豪だったサッカー部に入った。

大暴落・・・1920＝15歳：_広島師範学校でオリンピック十種競技の野中選手の講習会に選ばれて参加，跳躍を褒められ転機となる。
原敬首相暗殺1921＝16歳：_新設の徒歩部に入って独習し，初めての競技大会関西中等陸上大会に出場したが，あがって失敗。
水平社結成・1922＝17歳：_それをバネに，学業成績が落ちるのもかまわず練習，校長に直談判して徒歩部が全国中等学校競技会に出場，走幅跳びと高飛びに優勝，広島一中も優勝。この時，神戸高商の選手から三段跳びで示唆を受ける。
関東大震災・1923＝18歳：中学を卒業，家が貧しかったため，広島高等師範付属教員養成所に籍を置く。*大阪で開催の第６回極東選手権競技大会に初めて日本代表選手として出場，走幅跳びと三段跳びに優勝して脚光を浴びる。
護憲三派圧勝1924＝19歳：_パリでのオリンピック大会の三段跳びで，日本陸上選手初の入賞者(6位)となる。
治安維持法・1925＝20歳：スポーツ指導者でもあった早大教授山本忠興が，早大サポータでもあった{実業之日本}社長増田義一にかけあって，奨学金を出してくれることになり，勧誘されて_早大商学部に入学するが，初めて壁にぶつかり，
円本時代始・1926＝21歳：のちに妻となる女性が練習を見にきていて，文通を始めた。
金融恐慌・・1927＝22歳：_限界説も出たが，努力のかいがあって，再び記録が伸び始める。〝三段跳び〟と命名し，以後普及。
共産党事件・1928＝23歳：*アムステルダムでのオリンピック大会で三段跳びについに優勝，日本最初の金メダリストになる。
早大競争部のキャプテンとして，チームを引っ張って多くの大会に出場，
満州事変・・1931＝26歳：_早大を卒業して，朝日新聞社に入社，運動部に籍を置き，世界一のスポーツ記者になろうと志す。関西社会人のチーム{浪速クラブ}を結成，以後競技会を開催。三段跳びに15m58という当時の世界新記録を樹立。
五一五事件・1932＝27歳：結婚。_台湾に指導講習に出かけて足を痛め，現役を引退，ロサンゼルス大会はコーチで参加。
その後，戦局が進展するに従い，スポーツ界は沈滞の一途をたどる。
日中戦争始・1937＝32歳：
勤務のかたわら後進の指導に当たり，

日米開戦・・1941＝36歳：
・・・・・・1942＝37歳：「陸上競技　其の本質と方法」，
創価学会検挙1943＝38歳：東京本社に転勤。運動部長。

敗戦・・・・1945＝40歳：空襲で思い出の品々を失う。_敗戦後はいち早く陸上連盟の復興に着手，
新憲法公布・1946＝41歳：青年スポーツ新書「陸上競技」。早大講師となる。*連盟理事に就任し，国民体育競技振興に尽力，

極東裁判決・1948＝43歳：スポーツ叢書「世界記録を目ざして」。「オリンピック物語」。_JOC(日本オリンピック委員会)委員に就任。
三大事件・・1949＝44歳：ヘッド・コーチとして，アメリカに派遣され，視察。水泳の日米対抗も取材。
朝鮮戦争始・1950＝45歳：「欧米スポーツ行脚」，
独立回復・・1951＝46歳：
部長待遇として，活動を自由にして貰い，
ﾒｰﾃﾞｰ事件・ 1952＝47歳：入門百科叢書「スポーツの見方」。斎藤正躬と共著で岩波新書「スポーツ」。_復帰がかなったヘルシンキでのオリンピック大会に，監督として参加。
自衛隊発足・1954＝49歳：マニラでのアジア競技大会でも陸上競技日本代表監督を務める。
55年体制始・1955＝50歳：「陸上競技五十年」，
国連加盟・・1956＝51歳：「世界記録は破れる　陸上競技」「跳躍一路」。_メルボルン・オリンピックには，希望して特派員として参加するが，報道に苦労。
なべ底不況・1957＝52歳：「私の信条　スポーツ精神」，
美智子妃・・1959＝54歳：現代教養文庫「オリンピック」。_紫綬褒章。東京オリンピックへ向けて，陸上連盟の選手強化をまかされ，
安保闘争・・1960＝55歳：
全国総合計画1962＝57歳：少年少女体育全集「陸上運動」，ケン・ドーティと共著「陸上競技　紙上技術コーチ」「全スポーツの筋力と柔軟性ためのコンディショニングの運動99例」，
東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ 1964＝59歳：_東京オリンピック大会では陸上選手総監督をつとめ，以後，IAAF(国際陸上競技連盟)技術委員になり，
大学紛争始・1965＝60歳：少年少女20世紀の記録「東京オリンピック」。_朝日を退職，母校の早大教授に就任して，
いざなぎ景気1966＝61歳：「陸上競技百年」，
美濃部都知事1967＝62歳：功績を称えられ，この年から{織田幹雄記念国際陸上競技大会}が毎年広島で開催される。
霞ヶ関ﾋﾞﾙ・ 1968＝63歳：
_広く後進の育成に努め，

日中国交回復1972＝67歳：「金メダル」，
石油ショック1973＝68歳：

ｸｱﾗﾝﾌﾟｰﾙ事件1975＝70歳：「21世紀への遺言」「最新陸上競技入門」。雑誌連載「わが陸上競技半生記」。_早大を退職して以降も，
田中角栄逮捕1976＝71歳：_IOC(国際オリンピック委員会)からオリンピック功労章。
JALﾊｲｼﾞｬｯｸ・1977＝72歳：自伝「わが陸上人生」。

革新大敗北・1979＝74歳：_IOC(国際オリンピック委員会)のオリンピック功労章を受章。
貿易摩擦問題1980＝75歳：_モスクワオリンピックボイコット騒動の時には，当初から反対つまり五輪参加に向けて動き，同年，織田を会長に日本マスターズ陸上競技連合が創立されるなど，活動を続ける。

中曽根内閣・1982＝77歳：

ｼﾞｬﾝﾎﾞ機墜落1985＝80歳：東京都名誉都民，
バブル始・・1986＝81歳：
ﾘｸﾙｰﾄ事件・ 1988＝83歳：_文化功労者に選出され，故郷の広島県の名誉県民並びに広島県安芸郡海田町の名誉町民にも推される。
昭和天皇没・1989＝84歳：*JAAF(日本陸上競技連盟)名誉会長になった。
晩年を夫妻で油壺に暮らしていたが，妻の死を期に藤沢市鵠沼の有料老人ホームに入居し，
・・・・・・1998＝93歳：_没した。

シリーズ「人間の記録」，平凡社百科事典，「目でみる日本人物百科」，インターネットWikipedia。藤井茂「増田義一伝」で追補，